

国立第二小学校の取組紹介

地域の自慢・学校の自慢

生活科・総合的な学習の時間

生活科（1・2年生）

生活科の学習のねらいは、身近な人々や自然と直接関わる活動や、自分の思いや考えを表現する活動を通して、自分たちの学校や地域が好きになったり、自分のよさや可能性に気付いたりして、前向きに生活できるようになることです。

1年生では、身の回りの材料や校庭・公園で集めた木の実、葉などを使って、おもちゃや楽器を工夫してつくります。自分でおもちゃを考えたり、つくったりする面白さや、自然の不思議さに気付くことができるよう学習を進めていきたいと考えています。

2年生では、1学期に、自分たちの住むまちのよさを見つけるために、まちたんけんを実施しました。2学期は、自分たちの住むまちで働いている人々と交流することを通して、より一層自分たちの住んでいるまちに誇りをもてるように「もっとなかよしまちたんけん」という学習に取り組みます。また、おもちゃフェスティバルでは、1年生を招待し、優しく接することを心がけます。これらのことにより、自分自身の良さや成長を実感できるように指導・支援していきます。

総合的な学習の時間（3～6年生）

総合的な学習の時間には2つのねらいがあります。まず一つは、地域の自然や、地域で活躍する方々と関わる学習を通して、自ら課題を見付け、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることです。もう一つは、取り組んだ学習を通して、自分のよさに気づき、考えを深め、自己の生き方を考えることができるようにすることです。紙面の関係で3年生と5年生の学習を例に説明します。

3年生「矢川たんけん」

1年間を通して矢川の様子や矢川の生き物を観察します。矢川に詳しい地域の方をゲストティーチャーとして招き、学習を深めていきます。季節によって生息する生き物の違いや周りの自然の違いなどについて調べることで、地域のよさに気付かせ、その大切な自然を守ろうという意識を育てていきます。

5年生「桜守活動」

1学期には、桜の木に肥料を撒く経験を通して、『桜を守るために自分たちにできることはないだろうか』と考えるようになりました。このように地域の環境を生かして、自分たちには何ができるかを考え行動することで、達成感や自信をもち、自分のよさや、自己の生き方を考えるきっかけになればと考えています。